



さくら小学校だより

令和8年6月22日

## さくらんぼ No. 3

世界に挑む姿を手本に、ぐんと伸びる6月に



さくら小学校 校長 大砂 直樹

あじさいが鮮やかに咲き始め、さくら通りを吹き抜ける風に夏を感じる季節となりました。新しい学年での生活も2か月を過ぎ、「自覚」と「自信」が少しずつ芽生え始めていることでしょう。

さて、今月はサッカーワールドカップが開催されています。日本代表に本県出身の2名の選手が選出された快挙は、子供たちに大きな夢と「努力を継続する大切さ」を教えてくれる最高の教材です。世界に挑む姿を手本に、子供たちも自分の可能性を信じて、ぐんと「伸びる」6月となることを願っています。

この「伸びる」ために、本校が大切にしているのが「想像力」と「感謝を行動につなげる心」です。人は周りの支えに気が付き、感謝を「もっと頑張ろう」「恩返しをしたい」という強いエネルギーに変え、挨拶や日々の努力といった行動に移していくことで、大きく深く成長していきます。また、想像力は、自分の行動が誰かを笑顔にしているか、あるいは傷つけていないかを立ち止まって考える羅針盤になります。相手を思いやる想像力、そして未来の自分を思い描く想像力を働かせることは、子供たちが自らの手で望む未来を切り拓く力へとつながっていくと思っています。子供たちが「想像力」を働かせ、「感謝の行動」を積み重ねてくれることを願っています。



### 子供たちの笑顔と学びが広がる授業を目指して

研修主任 水口直人

今年度は、昨年度の確かな研究成果を基盤とし、子供たちがこれまで以上に充実感や満足感、そして達成感を得られる授業の創造を目指して、研究を更に推進してまいります。特に、以下の2つの柱を重点的に取り組み、日々の教育活動を発展させてまいります。

#### 1 「はなさくタイム」の更なる充実

本校では、子供が他者（級友や教師、地域の方など）と主体的に話し合い、自分の考えを深めたり見つめ直したりする時間を「はなさくタイム」と呼んでいます。今年度も、「はっけん なっとく さつ」と反応 くらべよう」の合言葉を意識し、子供たちがより深い対話を通して学び合えるよう、授業の中に計画的かつ効果的に取り入れていきます。

#### 2 「さくらの授業モデル」の確かな活用と実践

松山市教育研修センターの「松山の授業モデル」を基に、本校の実態に合わせて作成した「さくらの授業モデル」は、導入から3年目を迎え、教員の指導の軸として深く定着してきております。今年度も本モデルを最大限に活用し、45分間の授業の後に、子供たちが「勉強が楽しかった!」「難しかったけれど、最後まで頑張れた!」「友達と交流したからよく分かった!」と感じられるような、一人一人の満足度にこだわった授業づくりに努めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今年度も変わらぬご理解と温かいご支援・ご声援をどうぞよろしくお願いいたします。